

平成28年度「東京都 児童・生徒の学力向上を図るための調査(第2学年対象)」結果一覧 練馬区立大泉学園中学校

◆学力調査の結果（正答率） 7/7（木）

教科	A 教科の内容										B 読み解く力に関する内容								AとBの合計			
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 話す・聞く		技能 書く		知識・理解 言語		読む		合計		取り出す力		読み取る力		解決する力		合計		合計	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	93.3%	96.9%	81.0%	82.5%	37.0%	62.7%	67.6%	67.9%	72.8%	76.2%	70.7%	72.9%	66.0%	65.3%	61.3%	61.3%	39.3%	45.5%	58.2%	59.3%	68.7%	70.7%
社会	92.0%	93.1%	54.7%	56.9%	56.8%	61.1%	46.4%	47.0%			55.4%	57.6%	51.3%	54.8%	62.0%	59.9%	60.3%	59.5%	57.9%	58.1%	55.9%	57.7%
数学	88.0%	89.5%	36.0%	43.2%	57.5%	63.0%	58.0%	61.1%			56.5%	61.5%	28.7%	37.1%	43.0%	45.1%	29.0%	27.7%	33.6%	36.7%	51.7%	56.4%
理科	86.7%	90.4%	47.4%	57.2%	59.0%	67.4%	51.3%	49.6%			54.2%	57.7%	56.0%	60.1%	31.0%	30.2%	37.0%	45.4%	41.3%	45.3%	51.3%	54.8%
英語	78.7%	82.8%	35.2%	39.1%	60.8%	64.1%	48.4%	46.7%			53.7%	55.7%	56.7%	64.6%	40.0%	47.8%	44.0%	49.9%	46.9%	54.1%	52.2%	55.4%

◆教科等の合計正答率（A，B）と分析・改善策

	学年	東京都	分析（身につけている力・課題等）	改善策・取り組み
国語	68.7%	70.7%	「関心・意欲」や「言語」、「話す・聞く」の分野ではある程度の力がついてきていると思われる。しかし、「書く」の分野では力がかなり不足している。また、「解決する」力も同様である。	「書く力」「解決する力」には、まずいろいろなものごとについて「考える」という行為が必要である。しかし、「考える」行為は到達点が見えにくいためか、前向きに取り組まない。授業では根気強く「書く」について課題を出し、まず内容を「考える」という活動を繰り返し行っていく。
社会	55.9%	57.7%	関心意欲の関する問題及び資料活用能力を問う問題については、非常に高い力を持っている。また、思考判断を問う問題についても力がある。知識理解を問う問題については標準的であるが、問題によっては力を出せていない。	関心意欲の関する問題については授業での発問等でより力をつけさせたい。資料活用能力を問う問題及び思考判断を問う問題については概念地図を書かせる等で考え表現する力をつけさせたい。知識理解を問う問題については、イーラーニングを利用した指導を充実させる。
数学	51.7%	56.4%	簡単な計算処理能力は身につけている。しかし条件を読み取って式で表現する力が不足している。また、適切な用語や表現を使って理由を説明する力が不足している。	問題の中の条件を視覚に訴えて確認したり、問題文を一人一人がしっかりと読む時間、考え方を発表する時間を確保したりして、理解を深めさせる。
理科	51.3%	54.8%	生徒は授業、実験、観察等を通して関心意欲をもって取り組んでいる。情報を整理させ、それぞれの情報を既習内容と関連させ、いくつかの特徴を比較したり関連づけたりして、読み取る力、解決する力、科学的思考力が不足している。	見えないものを見えるようにする指導の工夫、学習したことと自然や生活の中に存在するものを関連づける場面を設定し、理科を学ぶ有用性を実感させ、科学的に考える習慣を身につけさせる。
英語	52.2%	55.4%	授業中の会話の活動や文法練習に意欲をもって取り組んでいる。決まった文法事項、指定した語句を使う力については、学んだことを生かして自己表現をしたり、聞いたり読んだりする力が不足している。	学んだことを実際の会話の中で使う場面を多く設定し、語彙力を実践的なものにしていく工夫をする。理解したことを繰り返し練習していくことで表現できることを増やしていくよう指導を続けていく。